



まなびやまと



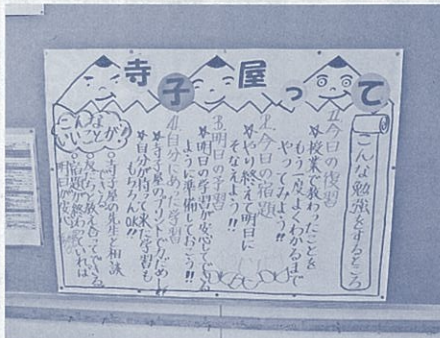
No.26

平成26(2014)年10月
大和市教育委員会

放課後の学校で勉強を 〜放課後寺子屋やまと〜 大和市教育委員会・指導室

大和市教育委員会では、平成26年度、子どもの学力向上と学習習慣の定着を目的として、「放課後寺子屋やまと」を実施しています。教職員OBがコーディネーターとなり、学習支援員やボランティアと共に指導や支援にあたりながら、小学校4〜6年生を対象に、週3日の放課後、児童の学習をサポートするものです。本年度は、林間小学校、西鶴間小学校、大和小学校、柳橋小学校、福田小学校、渋谷小学校の6校で先行実施しています。

5月12日(月)、林間小学校と大和小学校を皮切りに、「放課後寺子屋やまと」が始まりました。教室には、学習に楽しく意欲的に取り組めるように、算数・国語のプリントや、学習に関する掲示物が準備されていました。



開始の時刻になると、ランドセルを背負った児童が徐々に集まってきました。児童は思い思いの席につき、学校の宿題や、寺子屋やまとで用意した算数プリントに取り組み始めました。宿題の算数プリ



ントに取り組んでいた児童は、かげざんの筆算方法を、コーディネーターや学習支援員から丁寧に教えてもらい、理解できるように

なりました。また、漢字を学習していた児童は、寺子屋やまとが用意した漢字のプリントに積極的に取り組み、止めや払いなど、教えてもらっている姿が見られました。自分で目標を決めて、意欲的に学ぶ姿が印象的でした。

参加した児童は、「家では集中して勉強できないけど、ここだと勉強がはかどる」「学校の勉強ではわからなかったところも丁寧に教えてもらえてよかった」「友だちと相談しながら勉強できるのが楽しい」と話していました。

コーディネーターは、「1問でも2問でも、できる喜びを感じさせ、学習を習慣化させたい」「子どもが関心をもつて臨んでほしい。子どもたちの学習習慣が定着していったらいい」と語っていました。



科学への興味の種をまく 大和市教育委員会・教育研究所

6月28日(土)大和市教育研究所主催の「子ども科学教室」を、林間学習センターで開催しました。

「子ども科学教室」は、子どもの科学に対する興味関心を引き出し、科学的な考え方や、創造力の育成をめざして、年間5回開催しているものです。

この日は、「望遠鏡をつくらう」というテーマで、市内の小中学生48人の応募者を対象に、科学教室を行いました。

初めに、凸レンズを使った実験を行い、光がどのように進むのか、なぜレンズを通すと物が逆さまに見えるのかなど、望遠鏡の仕組みについて学びました。

次に、雨どいや紙筒など、身近な材料を使い、望遠鏡の製作を行いました。できあがった望遠鏡をのぞきながら、完成した喜びや、遠くの景色が近くに見える驚きの声があがっていました。

参加した児童からは、「知らないことがわかってよかった」「実験をたくさんやってくれてとても楽しかった」という感想がありました。

今後10月、11月にも「子ども科学教室」を実施します。



ネット社会を歩んでいくために

大人も情報モラル教育

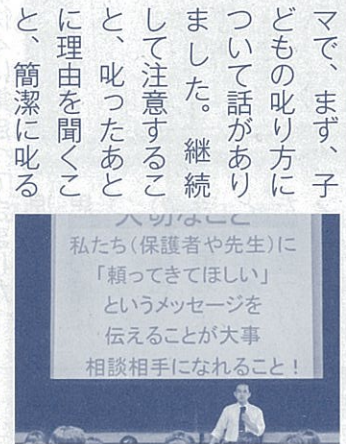
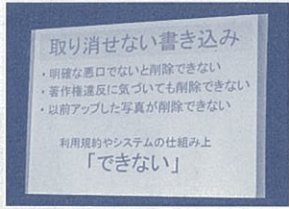
大和市立桜丘小学校

6月14日(土)、桜丘小学校で保護者を対象に、「情報教育講演会」が行われました。講師は、東京女子体育大学教育工学研究室准教授の榎本竜二先生でした。

桜丘小学校では、「学びあい 育ちあい 共に生きる子をめざして」情報モラル教育を通して「というテーマのもと、情報モラル教育の研究を進めています。

ICT機器の充実と共に、インターネットやスマートフォンが進むネット社会で生活していくために、情報モラルの学習は必要不可欠となってきます。そこで、学校での取り組みを理解してもらおうと、情報モラル教育を進めていくうえで保護者の理解や家庭での働きかけも重要と考え、この講演会を実施しました。

講演会では、「子どもをとりまくネットワーク社会について子ども健全育成に向けて」というテーマ



マで、まず、子どもの叱り方について話がありました。継続して注意すること、叱ったあとに理由を聞くこと、簡潔に叱ることを話していました。次に、子どももネット社会への入口はゲーム機であることや、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の実情について説明がありました。また、スマートフォン、パソコンを利用したインターネット上での問題について、実際の写真を交えながら話がありました。ネット依存、SNS疲れといった、小・中学生に起こりうる問題についても話していました。また、子どもには使い方について禁止するだけではなく、理由を説明したり、危険なことは直ちに注意したりすることも大事だという話もありました。会場の保護者は興味深く話を聞いていました。講師の先生は最後に、「子どもは問題が起こるとどうしていいかわからず、問題が大きくなってしまふ。大人は解決ができる。トラブルの中身は時代と共に変わっていくが、困ったときに大

人から「頼って欲しい」というメッセージを伝えることが大切であると話していました。

講演を聞いた保護者の感想は、「ルールを守ったり、正しい判断ができるような力をつけたりすることが大切なのだと感じた」「子どもに、あなたは大切なんだよ、困ったときはいつでも相談に乗るから、と伝えていきたい」などがありました。

ICT機器の安全な使い方を学ぶと共に、日頃から親子で会話する環境を作ることの大切さを感じた講演会でした。

情報社会の現状を学ぶ

大和市PTA連絡協議会
大和市教育委員会

6月20日(金)、大和市PTA連絡協議会と大和市教育委員会の共催で、生涯学習センターにおいて、市内小・中学校の保護者および学校代表者を対象に、「情報モラル研修会」を行いました。この研修会の講師は、ネイシステクノロジー合同会社・子どもコミュニケーション

テイサイト協議会理事の大本いづみさんで、子どもたちのネット利用の現状と大人の役割を学



ぶことを目的として行われました。研修の中では、まず、子どもたちの現状や実態、多様化するインターネット接続機器について、続いて、実際に起こった事例の、写真などの資料を交えて話されました。

次に、タブレット型PCを使って、SNSの模擬体験の実習を進めながら、実際に子どもたちの利用を想定し、グループワークを行いました。

その中で、子どもの間で起こりやすいトラブルについての説明がありました。

そして、子どものケータイやパソコンなどのICT機器の利用を、親が監視して制限するペアレンタルコントロールについての説明や、子どもたちを守るためにできること、家庭のルールについて話がありました。

研修会に参加した保護者の感想は、「時代の流れに親の情報に間に合っていない。もっとアンテナを巡らさなくてはと思う」「インターネットが子どもの身近にあるものだとわかった。知識をもって親が守ってあげられるようにしていきたい」などがありました。

情報社会の現状を理解すると共に、危機意識を高めることのできた研修会でした。



相手の気持ちを考える

大和市立西鶴間小学校

6月12日(木)、西鶴間小学校では、全校児童を対象に、「人権講演会」が行われました。児童の人権意識を高めることを目的とし、1～3年生は、「相手の気持ちを考えるスキルを身につけよう」、4～6年生は「感情をコントロールするスキルを身につけよう」をテーマに実施しました。

まず、体育館で神奈川県大和警察署生活安全第二課少年係の田中彦郁さんの講演を聞きまし
た。田中さんは最初に警察の仕事について話した後、「はじめとは何ですか」と、児童に問いかけました。そして、「はじめとは、みんながされて困ることや嫌だと感じることで、犯罪につながる」と説明していました。そして「はじめは、被害者と加害者、どちらもつらくなる」と話していました。



次に、スクールサポーターの杉本博幸さんによる、ケータイやスマートフォンを使いたいじめについての

話がありました。「ルールを守って正しく使おう」と話していました。

講演会後、児童は、教室へ移動し、道徳の授業を受けました。4年生では、「上手に「いや」って言えるかな」という課題のもと、授業が行われました。

まず、教師が友だちからの誘いの断り方を2通り演じ、その言い方によって受け取り方が変わること気づかせました。次に、実際に友だちから嫌なことを言われる場面を想定し、「嫌だ」という気持ちの上手な伝え方について考えました。児童は「その後、ケンカにならないように答える」「相手が悪いと考えないようににして答える」など、上手に「嫌」といえる言葉を考えていました。最後に、「人間関係が良くなるために、自分の思いを自分の言葉で相手に伝えられるようになって欲しい」という先生の話で授業は終わりました。

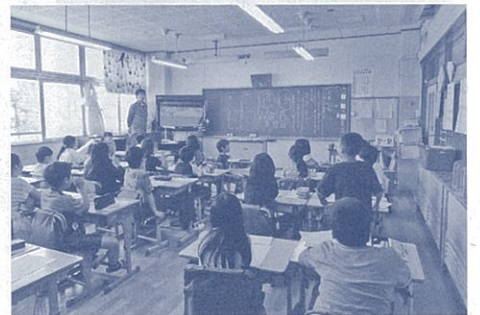


授業後、児童は、「軽い気持ちで言っても、相手には深い傷を負わせていることがわかった」「嫌な言葉を

を言われると嫌な気持ちになる。優しい気持ちをもつて、優しい言葉を言えるようになり

たい」と児童の人権意識の高まりを感じる

ことができました。



お話の世界を楽しむ

大和市立鶴間中学校

7月2日(水)、3日(木)、4日(金)の3日間、鶴間中学校で、大和おはなしの会による「すばなし」が行われました。学校で取り組んでいる朝読書活動の一環で、生徒が読書に興味をもつようになることをねらいとして、年に2回、1年生～3年生の全クラスで実施しています。

7月4日(金)は、2年生の4クラスでそれぞれ行われました。あるクラスでは、オランダの昔話である「世界で一番美しいものは」というお話をしていました。オランダの海沿いの町の話で、お金持ちの女性が世界で一番美しいものを探すように

船長に命じます。船長は小麦を持ち帰りますが、女性はその小麦を捨ててしまいます。その後、女性は貧乏になつてしまつたという話です。生徒は、真剣な表情で聞き入っていました。また、他のクラスでは、中国の昔話、フィンランドの昔話、ドイツの昔話をそれぞれ話していました。

「すばなし」を行った大和おはなしの会のみなさんは、「子どもたちが全身で受け止めているので、それに負けないように話をした」「思春期ならではの感性で、大人と違う聞き方をするので、緊張もするが、楽しくもある」と話していました。生徒の感想は、「何も見ないで、完璧に話の世界をつくっているのがすごい」「毎年楽しみにしています」などがありました。

担当の教員は、「本を読むことが苦手な生徒も、『すばなし』だと受け入れることができる。物語の世界に素直に入っている」「ボランティアの人の交流も大切な経験になる」と、「すばなし」の効果を感じていました。



おらが学校
「生きる力・豊かな心」
 大和市立大和中学校

大和市役所からほど近く、広いグラウンドと銀杏並木に囲まれて、大和中学校はあります。今年で創立67周年を迎え、生徒数813名、クラス数24学級の大規模校です。現在の校舎は、平成24年12月に着工し、約1年の期間をかけ、大規模な改修を終えたばかり。写真のように広々とした新しい昇降口が生徒を迎えています。



「生きる力と生命・人権を尊重し、豊かな心を育み、生徒にとっての最善の利益を常に最優先する学校」を目指し、日々の教育活動に取り組んでいます。

読書を勧めるキャラクター「わぼん」
 大和中学校に誕生したゆるキャラ、「わぼん」。図書館を多くの人に利用してもらいたいという願いを込めて、生徒が作りしました。「図書館だより」やしおりなどに登場し、本を紹介してくれます。随時生徒からのリクエストを受け付けており、図書



館には1万冊以上の蔵書があります。生徒が作成したポップを添え、手に取りやすいレイアウト、配置を心がけています。昼休みにはたくさん生徒が図書館を訪れ、熱心に読書を楽しんでいます。

全校一斉朝読書

平成18年度からスタートした朝読書も今年で9年目。毎朝の10分間、校舎は静寂に包まれます。この活動は、読書に親しみ、その楽しさを知るきっかけとなっています。同時に、一日の始まりとして気持ちを切り替え、落ち着いた生活を始めるための大事な時間ととらえ、生徒は熱心に取り組んでいます。学級文庫も、PTAからの寄贈により大変充実しており、各クラスに70冊以上常備され、生徒がいつでも本を手に入れる環境にあります。また、秋の読書週間には、図書委員会主催による「朝読書標語コンクール」を実施し、優秀作品を表彰しています。

このように、生徒主体の読書活動が推進されています。

さらに、昨年度は「やまと絵本の会ソレイユ」による読み聞かせを、全校全クラスで実施し、生徒にとって貴重な体験となりました。



中学校にも夢先生がやってきた!
 大和市立上和田中学校

7月14日(月)、上和田中学校で2年生を対象に「夢の教室」が実施されました。「夢の教室」は大和市と公益財団法人日本サッカー協会(JFA)が協定を締結し実施しているもので、平成25年度は市立小学校19校を対象とし、平成26年度は市立中学校9校も対象となり実施されています。



この日は、フットサルのワールドカップ日本代表チームのキャプテンであり、ASVパスカドーラ町田に所属している滝田学さんをはじめ、4名が来校しました。まず、体育館で、ゲームを通して仲間と協力することの大切さを学びました。次に、教室に移動し、滝田さんからフットサル選手になるまでの話や、選手になってから苦労した話などを聞きました。滝田さんは「必ず自分にあった夢が見つかるので、あきらめずにがんばってみてください」と、夢をもつことの素晴らしさについて話しました。

最後に、生徒一人一人が自分の夢についてカードにまとめ、それぞれの夢を語っていました。

子どもの居場所
 ～青少年健全育成講演会～
 大和市教育委員会・青少年相談室

7月12日(土)、青少年健全育成講演会が渋谷学習センターで開催されました。目的は、子どもの問題行動に悩む保護者への支援、青少年に対する理解と健全育成についての市民への啓発を図るなどでした。



「子どもたちの豊かな育ちを支えるために」子どもたちの居場所づくり」という演題で、NPO法人フリースペースたまりば理事長の西野博之さんの講演会が行われました。西野さんは、川崎市が、いじめ、不登校、虐待など様々な問題を抱えながら生活している子どもたちの居場所として開設している「子ども夢パーク」の運営を担っており、その活動の様子をお話いただきました。子どもにとって居場所の必要性を改めて感じることができました。

「まなび やまと」は、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。お読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。
 (お問い合わせ) 大和市教育委員会
 指導室 26005210 教育研究所 26005213